

公益財団法人国際文化フォーラム

2014(平成 26)年度 事業計画書



2014 年度は、PM2.5 を含め、諸般の社会事情に鑑みて、新規事業開発よりは、TJF が開発したコンテンツを使った外国語教育の実践を多くの人と共有すること、また TJF への共感を広げていくための新たな広報活動に力を注いでいきます。

実践者からの発信

■好朋友を使った中国の日本語教育の広がり(公1)

2012 年度から 2013 年度にかけて、日本語教材『好朋友』を使ったカリキュラムの開発を行いました。日本語教育の実績がある東北三省から選ばれた教師 5 名が、地域、中学と高校の別、履修方法や時間(必修、選択、クラブ活動)が異なる現場で『好朋友』を使った経験を活かし、カリキュラムをつくるための集中研修を二度行いました。「好朋友ウェブ」には授業づくりに役立つ指導書や漫画の使い方等を掲載していますが、加えて今年度内の完成を目指し、5 名の先生方が開発したカリキュラムを中心に一連の資料を 1 冊にまとめた「好朋友参考資料集」を制作中です。

これまでは、『好朋友』の制作にかかわった日本語教育専門家を講師に迎え、この教材の理念を伝えるための研修を実施してきましたが、2014 年度は、この参考カリキュラムを開発した先生方の実践報告を中心としたワークショップを行います。4 月に上海、8 月に西安もしくは成都で、参加者に前述の資料を配付し、現場の実情に沿った授業案づくりに取り組んでいただくことを通して、『好朋友』を使った日本語の授業を中国全土に拡大していきます。

■くりっくにつぼん活用術を考える(公1)

くりっくにつぼんの記事を活用した授業づくりをテーマに 2013 年度はオーストラリアの日本語教師を対象にシドニーとパースで、韓国の日本語教師に向けてはソウル・釜山・埼玉で、中国の日本語教師には埼玉でワークショップを実施しました。

韓国、中国に関しては、くりっくにつぼんの内容紹介が中心となりましたが、2014 年度はこれをさらに進めて、上記三ヵ国を対象に、くりっくにつぼんの記事を実際に授業で活用している教師の発表を中心としたワークショップを開催します。

■めやすマスターティーチャーの実践を共有(公2)

2014 年度は『外国語学習のめやす 2012』の理念や方法論についての研修を引き続き行います。また、定期事業として「めやすマスターティーチャー養成」第 2 回研修を実施します。第 1 回マスターティーチャー研修参加者 18 名が作成した単元案や授業案を「実践サポートめやすウェブ」に掲載します。また第 1 回参加者が主体となって企画する研修を各地で開催することで、「めやす」がめざす外国語教育が多くの現場に浸透していくことを目標にします。

コラボレーションを体験する交流プログラム

TJF は、韓国語や中国語、英語、日本語など、学んでいることばを実際に使いながら、参加者が協力して、新しいアイデアやモノをつくりあげていくことを

体験するプログラムを実施してきました。2014年度は、以下の交流プログラムを行います。

■互いのことばを学ぶ、日韓・日中の中高校生交流プログラム(公3)

3回めとなるK-POPダンスをテーマにした合宿型の交流プログラムを来年度もソウルで実施します。2013年度は、韓国側の参加者をソウルおよび京畿道地域に限って公募しましたが、2014年度は、韓国の中高校の日本語教師のネットワークである「韓国日本語教育研究会」の協力を得て、募集を全国に広げます。

2007年度から実施している「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」は、主催者の意向により2013年度は委託がありませんでした。2014年度も状況に変化はないことが予測され、また、PM2.5問題の深刻化もあってTJFとしては、実施を見送らざるをえません。そこで日中高校生の交流事業として、新たに日本語を学んでいる中国の高校生を日本に招聘し、中国語学習に取り組んでいる日本の高校生との合宿型プログラムを東京で実施することとしました。中国側参加者は、日本語教育に取り組む中高校の校長のネットワークである「中国中等日本語課程設置工作研究会」の協力を得て決定し、中国の日本語教育の推進をはかっていきます。日本側参加者は、中国語教育取組校を中心に公募で決定します。

■隣語実施校の校長交流プログラムの実施(公3)

日中の高校で中国語、日本語教育を定着させる鍵を握るのは管理職の方々です。彼らの理解を深めるため、これまで両国の校長を招聘・派遣するプログラムを実施してきました。また、昨年度からは、日本で中国語教育

に取り組む学校の管理職が自校が抱える課題の解決に向けて、情報交換する場を設けてきました。

これらの実践を踏まえ、2014年度は日中の管理職の交流を図ります。中国で日本語教育を実施している、あるいは日本語教育の導入を検討中の中高校の校長30名を日本に招聘し、中国語教育実施校の訪問や、教育関係者との意見交換の機会を設けます。なお、招聘者の決定は、前述しました「中国中等日本語課程設置工作研究会」と協力して行います。

TJFの広報活動における新たな試み(公4)

2013年度をもって印刷物としての『国際文化フォーラム通信』の発行を休止しました。事業広報としての役割は、従来からあった『事業報告』の内容を一新し、各事業に深く関わっていただいた方々のインタビュー記事を掲載するなど、企画性の高いものにすることで果たしていきます。これに伴い事業報告のデザインを変更するとともに、印刷部数を800部から5000部に増やして、旧フォーラム通信の読者全員に配付します。

また、2014年度は、メールマガジンを通してTJFの事業について発信の頻度を高め、支援者獲得をめざして事業に関連したテーマのイベントを定期的に開催するとともに、インターネットラジオ等を使った新たな広報スタイルにも挑戦していきます。

2014 年度の事業一覧及び各事業計画概要

公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における二外日本語教育の促進(定期事業)
2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営と記事活用のワークショップの実施(定期事業)
3. 日本語教育・日本理解事業に関する活動(定期事業)

公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 「外国語学習のめやす」講演・研修とマスターティーチャー養成研修の実施(定期事業)
2. 隣語講座の開催(定期事業)
3. 外国語教育・多文化理解事業に関する活動(定期事業)

公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 中高校生の交流プログラムの実施(定期事業)
2. 隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラムの実施(定期事業)
3. 交流事業に関する活動(定期事業)

公 4 TJF の広報活動

1. TJF の事業の広報(定期事業)

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				32,056,915 円 (内、公1共通費用*15,688,085円)
1 中国における日本語教育の促進 (定期事業) 6,846,940円	通年	中国遼寧省、上海市ほか	①シンポジウムの開催 4月に上海市で、外国語教育の意義と使命を考察し、グローバル人材を育てる第二外国語としての日本語教育の可能性について参加者とともに考えるシンポジウムと、第二外国語用日本語教材『好朋友』活用のためのワークショップを実施する。 ②ワークショップの開催 「中国中等日語課程設置校工作研究会」の年次大会（8月、西安市あるいは成都市を予定）開催にあわせて「好朋友参考カリキュラム」開発教師の実践報告や日本語教育専門家によるワークショップを実施するほか、遼寧省大連市で「くりっくにっぽん」の活用を中心としたワークショップなどを行う。華東地域で新たに第二外国語として日本語教育を導入した学校を視察し、今後の事業展開の参考とする。 ③図書寄贈 （公財）日本科学協会に協力して、日本の図書を中国の大学に寄贈する事業を2013年度に引き続き実施する。	①の事業 共催：中国教育学会外語教学專業委員会、国際交流基金北京日本文化センター 協賛：人民教育出版社、外語教学与研究出版社(予定) ②の事業 共催：大連教育学院ほか(以上、予定) ①および②の事業 助成：(公財)三菱UFJ国際財団、(一社)尚友倶楽部
2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営と記事活用のワークショップの実施 (定期事業) 7,510,250円	通年	TJFサイト、東京、韓国、オーストラリア、中国ほか	コンテンツを毎月更新するとともに、広報をおもな目的としたワークショップを実施する。今年度のワークショップはオーストラリアと韓国に重点をおき、各地の日本語教師会の協力を得て実施するほか、韓国の日本語教育研究会全国大会でも発表する。	助成：(一社)尚友倶楽部(予定)
3 日本語教育・日本理解事業に関する活動 (定期事業) 2,011,640円	通年	東京、富山、韓国、豪州など	日本語教育学会春季大会(東京)・秋季大会(富山)、日本語教育国際研究大会(オーストラリア)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者とのネットワークを広げる。また、韓国ソウル市で韓国の高校の日本語教師が中心となって運営している全国組織、韓国日本語教育研究会の役員との信頼関係をさらに深め、情報交換のみにとどまらず、今後の事業の連携の可能性を探る。	

公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業					34,076,238円 (内、公2共通費用*20,674,600円)
1	1.「外国語学習のめやす」 講演・研修とマスター ティーチャー養成研修の 実施 (定期事業) 10,614,012円	通年	①大阪、沖 縄、東京、 北海道ほ か ②兵庫ほ か	①各地での講演・研修・ワークショップ 「学習のめやす」の監修者である當作靖彦・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授ほか を講師に迎え、高度思考、情報活用、協働、課題解決などの力の育成を組み込んだ言 語教育の理念や具体的な手法について講演・研修を実施する。 昨年に引き続き、大阪、沖縄、北海道など、各都道府県教育委員会や、大学との共 催で実施する。各機関のニーズに合わせて、カリキュラムデザイン、評価、can-doでの目 標設定、読解活動などの内容を決定する。そのほか、2012年度まで夏に実施してきた 「外国語学習のめやす」研修のカリキュラムをいかしたオンラインでの研修運営の可能性 について検討する。 ②マスターティーチャー養成研修 昨年に引き続き、「外国語学習のめやす」の理念や手法について研修や普及のための 活動を運営・実施できるマスターティーチャーの養成研修を、中国語と韓国語以外に日 本語、英語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などさまざまな言語の教員や研 究者を対象に、夏・冬の計2回実施する。 マスターティーチャー養成研修終了者の実践案をウェブサイトに掲載し、関係者と広く 共有する。 また、2013年度の研修を終了したマスターティーチャーが講師をつとめる研修も各地域 で展開する。	①の事業 共催：各都道府県教育委員会、各 大学ほか 助成：在日中国大使館教育処(申請 中)
2	隣語講座の開催 (定期事業) 352,950円	通年	千葉、東京 ほか	千葉県高等学校中国語部会と共催する高校生向け中国語講座、韓国文化院と共催す る中高校生のための韓国語講座の実施を継続する。また、拓殖大学第一高等学校の韓 国語講座開設に協力する。新たに、TJF主催の中高校生向け韓国語講座も実施する。	中国語講座 共催：千葉県高等学校中国語部会 助成：在日中国大使館教育処(申請 中) 韓国語講座 共催：駐日韓国大使館韓国文化院
3	外国語教育・多文化理解 事業に関する活動 (定期事業) 2,434,676円	通年	日本国内 各地	高等学校中国語教育研究会(高中研)、中国語教育学会、高等学校韓国朝鮮語教 育ネットワーク(JAKEHS)、朝鮮語教育研究会など、国内の中国語や韓国語をは じめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げると ともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。 また、2014年度も引き続き日中友好協会主催の「全日本中国語スピーチコンテス ト」に国際文化フォーラム賞と副賞を贈呈するほか、在日中国大使館教育処や駐 大阪中国総領事館教育室主催の「漢語橋世界中高生中国語コンテスト」の予選大 会や高等学校中国語教育研究会各支部主催の学習発表会、韓国語作文大会等に対 して後援、協力を行う。	

公3 国内外の中小高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業					40,592,130 円 (内、公3共通費用*23,155,550円)
1	中高校生の交流プログラムの実施 (定期事業) 8,710,580円	①12月 ②11月 (予定)	①韓国ソウル市ほか ②東京ほか	下記2つを中心に、各国・地域の中高校生の交流プログラムを実施、サポートする。 ①日韓の中高校生交流プログラム 日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムを実施する。参加者は日韓ともに全国を対象に募集し、中高校生活を各16名ずつ選考する。会場は昨年と同じソウル市内のユースホステルを予定している。K-POPダンスづくりなど、中高校生が関心をもつ活動を行う。日本側参加者は往復国際航空運賃、保険料など実施費用の一部を負担する。 ②日中の中高校生交流プログラム 日本語教育に取り組む中高校の校長のネットワークである中国中等日本語課程設置工作研究会のメンバー校から生徒を1名ずつ(計18名を予定)日本に招聘する。中国語教育を実施している高校を訪問し学校生活を体験するほか、日本の高校生18名(予定)と合宿形式で交流活動を行う。実施時期は以下に記載する「隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラム」に合わせる。	①の事業 共催:秀林文化財団 助成:(公財)双日国際交流財団、 (公財)日韓文化交流基金(以上、申請中) 協力:韓国日本語教育研究会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、国際交流基金ソウル日本文化センター(以上、予定) 協賛:ANA(予定) ②の事業 助成:(公財)三菱UFJ国際財団(申請中)
2	隣語教育に取り組む日中の高等学校校長交流プログラムの実施 (定期事業) 6,371,200円	11月 (予定)	東京ほか	2008年度から中国語教育を実施している日本の高校の校長等を中国に派遣し、高校訪問のほか、教育関係者と交流するプログラムを実施してきた。来年度は、中国で日本語教育を実施している、あるいは日本語教育の導入を検討している中高校の校長ら30名を日本に招聘し、中国語教育を行っている高校の訪問や、教育関係者との意見交換の機会を設ける。招聘者の決定は、中国中等日本語課程設置工作研究会と協力して行う。	助成:(公財)三菱UFJ国際財団、 (公財)東華教育文化交流財団(以上、申請中)
3	交流事業に関する活動 (定期事業) 2,354,800円	通年	大阪、沖縄、京都、東京、奈良、新潟、宮城ほか	交流学習、国際理解教育、異文化間教育、情報教育等に関連する各種研究会・研修会に参加し、国内外の教師や専門家とのネットワークを築くとともに、情報収集および情報提供を行う。 また、2011年度から2013年度まで実施した「協働を生み出すプログラムの開発」事業を中心に、TJFが実施してきた交流プログラムの成果と課題を整理し、ウェブサイト等で発表する。	

公4 TJFの広報活動				34,400,084 円 (内、公4共通費用*23,155,550円)
1	TJFの事業の広報 (定期事業) 11,244,534円	通年	TJFサイ ト、メール マガジンほ か ①広報資料の制作 2014年度に発行する事業報告書では、事業の報告や2014年度事業の展望だけでなく、事業に関連したテーマの特集の掲載を検討したいと考えている。日本語版は印刷するほかウェブサイト上に掲載する。また、TJFの事業を紹介するパンフレットを日本語、英語、中国語、韓国語で制作する。 ②ウェブサイトの改訂 財団や財団事業についてよりわかりやすく伝えるため、TJFウェブサイトのトップページの改訂などを行う。 ③広報メディアの多様化 昨年度に創刊した公式facebookページを充実させるとともに、新たにTJFの事業に関する情報などをメールマガジンで発信し、インターネットラジオ等を使った広報活動も試みる。 また、事業に関連したテーマのイベントを定期的を開催してTJFの事業への理解を深めてもらう機会とし、支援者の獲得につなげる。TJFのコラボレーターやTJF事業の参加者向けのイベントも企画する予定である。	③の事業 助成:在日中国大使館教育処

*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃貸料など)